

No. 3 : 台湾で観光イベント ～本県訪問増へ魅力発信～（令和 5 年 6 月 28 日）

6 月 11 日から 13 日にかけて、県観光交流課は県観光物産協会と共同で、台湾において個人旅行者向け観光 PR イベントを開催するとともに、旅行会社への訪問営業を実施し、さらに日本政府観光局（JNTO）主催の教育旅行個別相談会に参加した。私も一部の事業に同行してきたため、今回はこれらの観光 PR イベントなどについてレポートしたい。



個人旅行者向け観光 PR イベントは台北 【台湾での個人旅行者向けセミナーの様子
で開催し、60 名以上の参加者に対して、県 =6 月 11 日、台北市】
内の旅程検討の参考にしてもらえるようお勧めのモデルコースを中心に紹介した。質疑応答では、東北エリアとの周遊に関する質問や、イチゴ狩りで食べることができる品種、紅葉が最もきれいな時期など具体的な質問が寄せられ、台湾人の訪日旅行への関心の高さを実感したところだ。

旅行会社への訪問営業は台北と高雄で実施した。両地域ともに 4 社ずつの計 8 社に対して、本県を巡るツアー造成・販売等に対する助成制度を紹介するとともに意見交換を行った。

訪問先は 30 人程度の団体ツアーを扱う旅行会社が多く、助成制度への関心の高さも相まって、団体客に対応できるホテルや食事場所についての質問が多く寄せられた。訪問後、新たに県内を 2 泊するツアーの造成・販売を開始した旅行会社もあり、一定の成果を得ることができたと考えている。

教育旅行個別相談会は台北と高雄で開催され、両地域の学校関係者に対し本県の PR を行った。台北では 19 校、高雄では 14 校と多くの学校関係者が県ブースを訪れ、交流を希望する学校の特徴、教育旅行実施時期の観光資源、ホームステイの受け入れ可否など、さまざまな質問が寄せられた。新型コロナウイルス禍で交流が一度リセットされたため新たに交流相手校を探したいという学校も多く、新規開拓には良いタイミングだったようだ。

日本を訪れる台湾人はリピーターが多く、東京や大阪といった定番の旅行先のみならず、地方を旅行したいという方も多い。そうした人たちに本県を訪れていただくとともに、長く滞在して楽しんでもらえるよう、今回の訪台で得た知見やつながりを今後の施策に生かしていく必要があるだろう。

（県香港事務所長 如木啓之）